



1 気象概況（8月前半：果樹研究所）
 8月前半の平均気温は、1半旬が27.4℃で平年より1.5℃高く、2半旬が24.9℃で平年より0.8℃、3半旬が24.4℃で平年より1.1℃低く、この期間の降水量は65.5mmで平年の94%でした。

2 土壌の水分状況（8月17日現在）
 果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.4、40cmが1.5、60cmが1.9で適湿状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（8月15日現在 暦日比較）

「ゆうぞら」の縦径は平年比108%、側径が平年比109%と平年より大きい状況です。

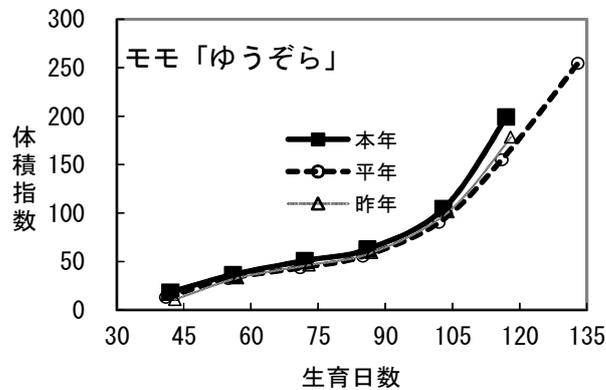


図1 ももの果実肥大

イ 中生～晩生種の収穫期と果実品質

「あかつき」の収穫始めは7月29日で平年より4日、収穫盛りは8月4日で平年より2日早い状況でした。

(2) なし

ア 果実肥大（8月15日現在 暦日比較）

「幸水」の縦径は平年比113%、横径が平年比110%、「豊水」の縦径は平年比111%、横径が平年比112%と各々平年より大きい状況です。

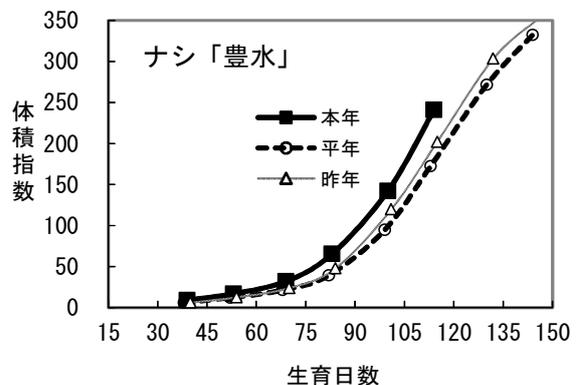
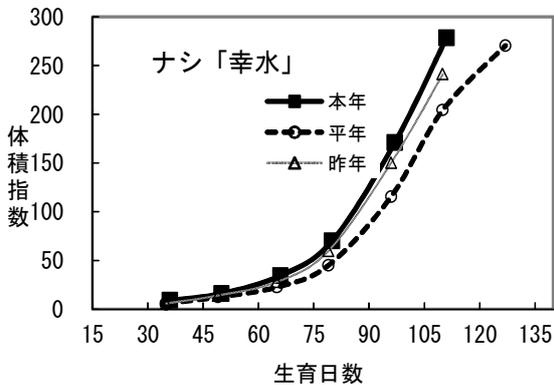


図2 なしの果実肥大

イ 成熟経過 (品種：幸水)

果実硬度はやや低い状況ですが、果皮中のクロロフィル含量の低下に対し、果実硬度の低下は大きくなく、現時点では果肉先熟の傾向にはありません。

ウ 収穫期予測 (8月17日現在 品種：幸水)

DVRモデルによる収穫予測では、収穫盛期は8月31日頃) で平年より2日早いと予測されます。

(3) りんご

ア 果実肥大 (8月15日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は平年比100%、横径が平年比102%、「ふじ」の縦径は平年比105%、横径が平年比107%と各々平年より大きい状況です。

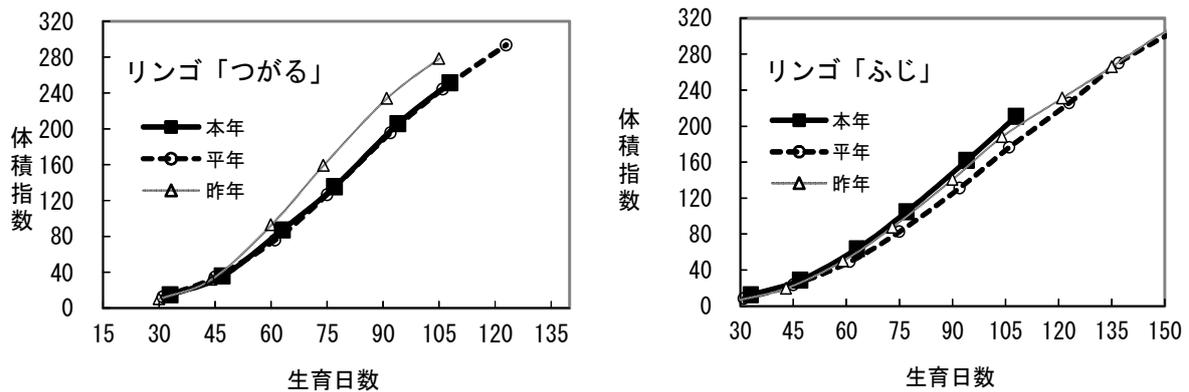


図3 りんごの果実肥大

イ 果実の成熟状況 (満開後112日 品種：つがる)

満開後112日 (8月19日) における果実品質は、硬度は13.0ポンドでほぼ平年並、デンプン指数は2.2で平年よりやや低い状況です。

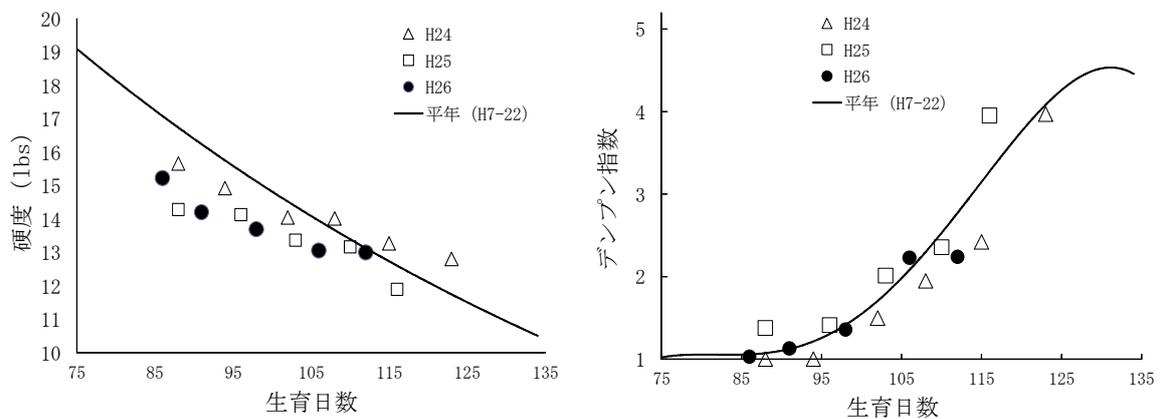


図4 「つがる」の果肉硬度とデンプン指数の推移

(4) ぶどう

ア 成熟状況

「巨峰 (無核栽培)」の成熟状況は、糖度が15.2%、果皮色が8.6、酸含量が0.87%と糖酸比は平年より高く、成熟は平年より進んでいます。

イ 「あづましずく」の収穫始めは8月12日で平年より6日早く、同13日現在の成熟状況は、糖度が16.9%、果皮色が9.1、酸含量が0.62%でした。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年8月14日発表)

今後の気温の経過は、1週目（8月16日～8月22日）は平年並の確率が50%、2週目（8月23日～8月29日）、3～4週目（8月30日～9月12日）は高い及び平年並の確率が各々40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

中生種までは核障害の発生が多く、果肉先熟の傾向がみられました。この傾向は晩生種でも同様と予想されますので、果実の成熟のバラツキに留意し、適期収穫に努めましょう。

まもなく収穫期を迎える「川中島白桃」等の晩生種では、夏期せん定、枝吊りや支柱立て、反射シートの敷設等、収穫前の管理作業は計画的に実施しましょう。

(2) なし

ア 「幸水」収穫の留意点

収穫基準は、幸水用表面色カラーチャートの1.5～2を目安に収穫を行いましょ。なお、収穫時の果実温が高いと果肉の軟化が進み、芯腐れの発生につながる恐れがありますので、早朝からの収穫と涼しい場所での保管を心掛けましょ。

(3) りんご

ア 早生種の収穫前管理と収穫

果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施ましょ。

葉摘みにより日焼け果の発生が心配される場合は、直射日光の当たらない部位から開始し、日焼けの状態を確認しながら徐々に行いましょ。

また、早生種は成熟終期頃の気象条件が果実品質を大きく左右ましょるので、適期収穫に努めましょ。

(4) ぶどう

ア 収穫適期の励行と収穫後の留意点

果皮色や食味、香り等を総合的に判断し、適期収穫に努めましょ。

なお、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下ましょるので、調整の際は穂軸を持って扱うよう心掛けましょ。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご褐斑病、炭疽病

今後は、褐斑病や炭疽病の感染、発病が増加する時期となりますので、防除を徹底ましょよう。

また、炭疽病の発生を抑えるため、園周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物は除去ましょよう。

イ もも灰星病

降雨によって本病の感染が助長ましょれます。「川中島白桃」等では、除袋後の薬剤散布間隔が空かないよう収穫間近まで防除を徹底ましょよう。

(2) 虫 害

ア モモノゴマダラノメイガ

中生種で被害がみられた園では、8月5半旬頃までに晩生種に対する防除を行いましょう。
なお、本種はカキやクリ等にも寄生するため、近隣にカキやクリがある場合は、これらにも防除を行いましょう。

イ モモハモグリガ

モモハモグリガ第5世代成虫の発生盛期は8月6半旬頃で、第6世代の防除適期は8月6半旬～9月1半旬頃と予想されます。

今後、気温が高く経過する場合は、各世代の発生時期も早まると考えられるため、多発園では収穫後の防除も実施しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月15日で、第4世代の防除適期は8月5半旬頃になると予想されます。

なお、例年ナシでの果実被害や近隣のモモ園で芯折れ症状が多い地域では防除を徹底しましょう。

エ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意しましょう。なお、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度に達した場合は、速やかに防除を行いましょう。

オ カイガラムシ類

合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多用している園では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

なお、なし園でクワコナカイガラムシの発生が多い場合は「幸水」収穫終了後に防除を行いましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成26年8月17日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第5世代 成虫盛期	第6世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月27日	8月30日	8月15日	8月22日
平年並み	8月28日	9月1日	8月15日	8月22日
2℃低い	8月29日	9月3日	8月15日	8月23日

注) 演算方法は三角法による。

起算日 モモハモグリガ：8月8日、ナシヒメシンクイ：7月21日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>